

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷(いぶき)		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	令和3年2月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300029-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年4月に開設して以降、日頃から地域の皆様方に多大なご理解とご協力を頂きながら、今年度で丸10年目を迎えることが出来ました。入居者様の平均介護度は、市内の他の事業所と比較しても高く、また、入居者様全体の約3割が開設当初から入居して頂いており、いつまでもその方らしい生活が送れるよう、心掛け支援を行っています。新型コロナウイルスが流行する以前は、地域の催し物や会議への参加、幼稚園、小中学校との交流学習の受け入れ等、様々な活動を通じ、地域に根差した事業所として取り組んで参りました。平成28年度からは市内で最初のGHの共有スペースを活用した共用型DSを開設し、認知症状が重度化した方でも、馴染みの地域や人々との関係性を継続しながら、その方らしい暮らしが送れるようサービスを展開しています。現在は、新型コロナウイルスで自粛していますが、毎月第2土曜日には、併設しているDSを利用して、同じ圏域の介護事業所や地域包括の職員と共に、地域のボランティアさんの協力を頂きながら、「おれんじカフェ」を開催しており、認知症について興味をお持ちの方、認知症を予防したい方、また、実際に認知症の方やその方を介護されている方を対象に、地域から孤立せず、様々な方との繋がりが持てるよう、イベントや企画を通じて楽しんで集える場としても活用しており、地域の高齢化に伴い、当事業所としての役割を職員一同で模索しながら、地域における認知症ケアの拠点となり得る事業所を目指し努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム共栄の郷」は共用型介護予防認知症対応型通所介護事業所・一般通所介護事業所を併設した開設11年目を迎える2ユニットの事業所である。多種の医療介護福祉事業所を展開している医療法人が母体であり、医療面や職員研修など様々な面で連携が図られている。職場内の看護職員や訪問看護師による利用者の適切な受診や看護は元より本人・家族の想いや視点に立ったターミナルケアに尽力している。身体拘束適正化に向けた会議等も推進しており、これらに係るアセスメントや検討が行われている。感染症の流行で地域交流や家族参加型行事、外出等は自粛であるが、例年、町内会お祭りの参加、ボランティアの力を得たおれんじカフェの開催、キャラバンメイトへの協力、学生の体験学習受け入れなど地域での活動や役割を積極的に担い、相互交流を保ちつつ利用者の生活の幅を広げている。利用者の飲み物の好みを把握するための丁寧な繰り返し支援や嚥下の状態により甘酒をシャーベット状にして提供するなど、利用者の満足等に配慮する介護を行っている。精神症状が強く食事摂取が難しい利用者では医療と介護の協働的な支援により表情の変化と共に本人の力で飲食が可能になるなど活性化につながっており、介護計画の立案や良好なチームケアの実践が窺える。本人のできることを一つでも多く見つけ出す工夫や働きかけも優れている。理念が全体のものとなり良質なサービスを提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識したケアについての勉強会をMT内で開くほか、各ユニットの掲示板や職員のネームプレートの裏側に理念が記されたものを携帯しておく等、日頃から目の届く場所に示し、実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念を標榜し、重要事項説明書やパンフレットへ明示し、事業所内要所に掲示している。ミーティング内勉強会で理念に沿うケアについて学ぶ機会がある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナウィルスの影響で実施できなかったが、地域の催し物や会議への参加、幼稚園、小中学校との交流学习に認知症カフェ等、様々な機会を通じて、地域交流を図っている。	今年度は町内会の回覧板で地域の状況等を把握するに留まっているが、例年、町内会の祭典に参加したりおれんじカフェでの住民との触れ合い、教育機関との相互交流など積極的な取り組みを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型DSや認知症カフェ、小中学校の交流学习などを通じて、事業所の特色を活かしながら、認知症への理解が地域全体で深めて頂けるよう発信している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様をはじめ、地域住民の方々や市の職員、包括福祉委員の方々等のご協力の基、当事業所の取り組みや状況報告を通じ、毎回、活発な話し合いが持たれ、サービス向上に繋げている。今年度は、新型コロナウイルスにより、書面で報告を行っている。	例年ミニ勉強会を盛り込み活発な運営であるが感染症対策のため令和2年3月から開催を自粛し、令和2年11月より書面報告の形式を執り会議を運営している。各報告事項は元より事業所における感染症フローチャートを作成し送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へのご出席や、日頃から個別での事案について、電話やメールを通して相談させて頂き、運営にあたってのアドバイス等を戴ける関係性が出来ている。	市の担当窓口へ口腔衛生管理体制に係る案件等について意見を仰いだり、感染症流行時における運営推進会議開催のあり方等について北広島サービスネットグループホーム部会から情報メールが発信され運営に活かされている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の休憩室に、身体拘束に関する具体例についての貼紙を掲示し、普段から目につくような環境を作り、職員の意識を高めている。また、身体拘束に関する法人内・外部研修の参加や、事業所内での勉強会を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、交通量の多い道路に面しているため、他事業所と共有し行っている。	身体拘束廃止に関する指針を整備し、重要事項説明書に明示して家族へ説明している。身体拘束廃止委員会を開催すると共に毎月のミーティングにて身体拘束をしないケアの理解と実践に向けた勉強会や身体拘束チェックシートでの確認、センサー使用状況等の評価を行っている。夜間帯のみ玄関を施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待に関する事業所内の勉強会を開き、職員間で学び、検討する機会を持っているほか、法人内・外部研修に参加した際には、職員間での情報を共有し、虐待防止に努めている。			

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用して、支援に繋がっている利用者様もあり、また、法人内・外部研修で権利擁護と制度に関して学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容に変更があった際には、都度、運営規定や重要事項説明書等を用い、分かり易く説明を行い、不安や疑問点等があった際には、しっかりとお答えし、安心して利用して頂けるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入り口にご意見箱を設置するほか、年に1度のアンケート調査を行い、事業所に対する率直なご意見等を頂く機会を設け、アンケート結果を後日、職員間で共有する機会を持ち、今後のサービスに反映している。	年に1度家族アンケートを実施しており家族参加型行事の周知の期日について意見が出されサービス改善に至った。現状、利用者から外出の希望が出た場合ドライブでの対応、コンビニエンスストア、買い物代理などにて支援を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他、年に2回の個人面談を行い、職員個々の職務や運営に関する意見を聞く場を設けている。また、現場にも積極的に入り、日頃から職員と気兼ねなく意見交換が行える環境が出来ている。	年2回施設長が職員との個別面談を実施している。共用型デイサービスの受け入れ態勢に係る内容や車椅子の購入について素直な意見が出されるなど、一緒に話し合いながら調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事とプライベートの切り替えができるよう、それぞれの生活スタイルに合った勤務体制や給与水準に関する相談を日頃から行い、調整を図っている。また、各職員の得意分野に目を向け、それぞれが活躍できる場を設け、仕事に対するやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	MT内での勉強会や、法人内・外部研修で、職員が学び、成長できる機会を設けているが、新型コロナウイルスにより、研修会は、今年度参加できていない。また、日頃から実践が積めるよう、チャレンジする機会を持ち、職員間で助言を行いながら取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は、市内のGH部会の定例会議や合同研修会を行い、事業所間、スタッフ間の交流が図っていたが、新型コロナウイルスの影響により、現在はメールや電話で情報交換を行い、サービスの向上に反映している。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、健康状態やADLの確認と現在の困り事などを傾聴した上で、事前にスタッフ間で情報共有し、安心して入居頂ける環境を整えている。又、入居直後もコミュニケーションの機会を多く持ち、関係性が築けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族様の不安事や心配事を十分にお聞きすると同時に、センター方式の様式の様式をお渡しし、ご本人様の嗜好、今までの人生について振り返って頂く機会を持ち、スタッフと共有することで共に支える第一歩としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階で、ご家族様やご本人様の不安事や困り事に耳を傾け、最適な選択に繋がるよう、他のサービスを提案を含めアドバイスさせて頂く事もあり、選択の幅を広げた上で、ご本人様やご家族様に自己決定して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を活用し、ご本人様の出来る事を見極め模索し、スタッフと共に生活を送る中で、互いに支え、寄り添う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や広報誌等で、ご本人様の様子をお伝えし、情報共有に努めている。コロナウィルスが拡大してからは面会の制限もあり、電話やメール等も活用している。コロナ禍の前は、行事や誕生会にもご家族様をご案内し、共に支え合える関係作りに努めていた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の前は、ご家族様の協力も仰ぎながら、墓参りやご自宅への外出、外泊等、馴染みの場に出向けるよう支援を行い、また、入居者様のご友人からのお手紙や面会があったりと、入居後も関係性が継続出来る様支援に努めている。	現在、家族との面会は窓越しでの対応となっている。感染症流行以前は、行事や誕生会に家族を招待したり、自己評価にある支援を行っている。利用開始前に通っていた美容室と連携し訪問美容を受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが互いの性格や共通性を理解した上で、座席の配置等に気を配り、状況に応じスタッフが介入する事で良好な関係性が築けている。また比較的、自室で過ごされる方に対しては、孤立しないようスタッフがこまめに訪室する等して、支援に努めている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合でも、相談事などいつでも対応出来る旨をお伝えし、今迄の関係性が途絶えないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のケアや関わりを通じ、個々の思いを汲み取り、把握に努めている。意思表示が難しい方に対しては、表情や仕草、また、ご家族様からの情報などを頂き、本人本位のケアに取り組んでいる。	利用開始時に家族の協力を得てセンター方式の暮らしの情報(生活歴)を取集し、傾向の把握や日常の暮らしの中で意向や想いを汲み取り、言葉にできない思いの把握や検討に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際の面談やご家族様からのアセスメントシートを基に、今迄の生活歴やどういったニーズでサービスを利用していたか等把握し、ご本人様が暮らし易い環境作りの手掛かりとして活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の定期受診のほか、日頃の様子や過ごし方、活動時の状況を観察し、職員間で情報共有する事で、心身状態や残存機能の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケース検討やケアプランの評価欄への書き込みを基にスタッフとの意見交換を行い、また、ご本人、ご家族様からのご意見、ご要望を反映させた上で、ケアプランを作成している。	生活支援計画評価欄の記入などで職員の気づきや情報を蓄積し、また主訴や要望をアセスメントし関係者間で介護計画を作成している。個別日課表は具体的に詳細な内容である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを記録台の傍に置き、プランに沿った記録を実施しながら、日々の実践状況や過程、様子の変化等を記録に落とし、アセスメント、モニタリング作成に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、買い物や書類の手続きの代行、また身体機能の変化に応じ、併設事業所のNSや機能訓練指導員から助言等を頂き柔軟に対応している。コロナ禍前はご家族様との外出、外泊支援も行っていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で今年度は行っていないが、例年は地域の催し物や幼稚園、小学校での行事、小中学生の体験学習の受け入れ等、地域社会と触れ合い、楽しみの幅を広げながらQOLの向上を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回主治医の基での定期検査、また状況が変化した際には24時間体制で指示が受けられる等の体制が整っている。ご本人及びご家族様の意向を尊重した上で、かかりつけ医以外の受診代行や往診の支援も行っている。	協力医療機関(法人みどり野医院)と他科への通院受診支援、訪問歯科、訪問看護の体制を築いている。また看護師を職員配置し適切な医療に係る支援が得られている。口腔衛生管理体制を強化している。医療経過は医療綴りに記録している。	

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子観察に努め、変化や気になる点が見られた際には、都度、看護師に相談、指示を仰ぎ、適切な受診や処置対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護添書や介護添書での情報共有を行ない、職員が入院先に頻回に面会に行き、病院関係者と直接、情報交換を行っていた。現在はコロナ禍の為、電話でのやり取りで情報交換を行い、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で、はじめに重度化に対する指針についての説明を行い、入居後は、ご本人様の体調変化や認知症の進行が確認された場合に、都度、ご家族様に現状報告と今後についての相談を個別に行い、ご本人様とご家族様のご意向を確認した上で対応をしている。	利用開始時に重度化に関する対応指針を説明し同意を得ている。その後、医師の判断及び家族の希望を受けあらためて看取り介護についての同意書を交わし合意形成を図っている。職員はターミナルケア研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、連絡網の作成や入居者様の十分な情報が迅速に提供できるよう、情報ファイルを用意している。また、普通救命講習も受講し、実践力を身に付け備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年は年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、訓練時には、地域住民の方やご家族様にもご参加頂きながら、協力体制を組んでいた。今年度は、未だコロナ禍で訓練は実施できておらず、今後、部分訓練と言う形で実施を予定している。	令和1年11月に消防署と地域住民の協力を得て日中・火災想定避難訓練を実施し、今年度は2月26日に通報・消火・図上訓練、3月に夜間・火災想定避難訓練を計画している。避難場所として運営法人他の事業所と連携している。	災害に備えた備蓄品、地震を想定した各居室等の安全対策について更に強化する意向であるのでその実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の人格を尊重し、声掛けや関わり方等相手の立場に立ったケアを、心掛け実践している。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけができるよう新人研修で学んでいる。日々の生活の中では、程よい距離を保てるように個別に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃、飲み物やテレビ、行事食のメニュー選び等、ご本人が選択できる機会を設け、また、日頃の関わりから、ご本人の思いや希望を引きせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランにも記載する等、日頃からご本人のペースで生活が送れるよう意識して、支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や身だしなみのケア、訪問美容での散髪を実施している。また、代行で衣類を購入する際は、本人の好きな色や形を考慮した上で購入している。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的にパンの日や誕生会、行事の際には特別メニューを組み、食べる楽しさを支援している。食後の片付け等も一緒に行う事で、様々な面から食に関するアプローチを行っている。	外部業者より3食調理済が配食されている。施設内では利用者と温めや味付けの調整を行っている。誕生会では好みの特別メニューとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好や、嚥下、咀嚼機能に合わせ形態で提供し、必要な水分量、栄養状態の確保に努めている。また、通常の食事で栄養が摂れない方には栄養補助食品の補食を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状況に合わせたケアに努め、また、訪問歯科による定期検査や治療にて、口腔環境の維持に努めていたが、コロナ禍の為、昨年11月以降から休診しており、必要時のみ診て頂いている状況。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や普段の様子から、排泄パターンを把握し、職員間で共有しながら、失敗を減らせるよう努めている。立位が取り難い方に対しては、二人介助で行う等して、トイレでの排泄が続けられるよう支援している。	生活日誌の中で排泄状況を記録し、排泄パターンを把握し時間で声かけ・誘導をし、トイレでの排泄を支援している。体力的に歩行困難な場合は、ベッド上で定期的にパッド・おむつ交換を行っていてもいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料の摂取や水分量の確保に努め、排泄表を用いて職員間で状況を共有。必要に応じて、主治医に相談の上、整腸剤を処方して頂くなど、便秘改善に向けた対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の皮膚状態に合った石鹸や好みのシャンプーがある場合はご本人でご用意して頂き、より入浴が楽しめるよう支援している。入浴剤も様々な物を用意し、時間帯も午前午後どちらでも可能として、体調や気分に合わせて対応。同性介助にも配慮している。	週に2回は入浴できるようにしており、希望があれば午後に入浴する場合もある。入浴温度は個別の好みに合わせており、リラックスできるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう注意しながら、一人一人の生活習慣や体調等に合わせ、必要に応じて休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情ファイルを作成し、いつでも服薬状況が確認できるようになっている。また、薬の変更や状況変化が見られた際には、職員間で情報を共有し、医師への相談を行いながら、適切な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や生活背景から役割や楽しみ事を模索し、体調や希望に合わせて支援を行っている。コロナ禍の為、今年度は外出行事が組めなかったが、毎月、室内での行事を企画し、気分転換を図っている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(いぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年5～9月までの間、外出行事を設けており、また、日常的にも散歩や買い物、ご家族様の協力の基、自宅への外出や外泊も行っていた。コロナウィルスの影響で、今年度は自粛している。	感染予防のため外出は控えているが、それがストレスとなっていると感じる場合は個別にドライブや買い物に出かけている。以前は毎月の行事予定案内を家族に送付し、家族も参加できるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望されるには、ご家族様に相談の上、少額のお金を自己管理して頂いている。自立度やコロナの影響もあり、今年度、買い物はスタッフが主に代行し行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話が出来るよう支援を行っている。誕生日や母の日等にプレゼントや手紙が送られてくるが、返信についてはアプローチしても応じてくれることはなく、受け取るのみとなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等には、利用者様の作品や季節に合った飾り付けを行っている。コロナの影響もあり、今年は特に、消毒や換気を十分にを行い、併せて安全面にも配慮している。	毎月、担当職員を決めてリビングの壁飾りを手作りし、季節感を感じることができるよう工夫している。リビングにはエアコンが備え付けられ快適に過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルを囲んで皆さんとの会話や活動を楽しんだり、ソファで寛ぐ等思い思いに過ごせる環境となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で長年愛用していた家具や馴染みの物を持参して頂き、思い入れのある物に囲まれた空間作りを行う事で、入居後も安心した生活が送れるよう配慮している。	居室には小さな冷蔵庫付きの床頭台が備え付けられており、好みのおやつや飲み物を入れている利用者もいる。馴染みのタンス等自宅の家具を持ち込み居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表れを掛けるほか、トイレは分かり易く表示し、個々が認識できて安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷(うらら)		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	令和3年2月13日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300029-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年4月に開設して以降、日頃から地域の皆様方に多大なご理解とご協力を頂きながら、今年度で丸10年目を迎えることが出来ました。入居者様の平均介護度は、市内の他の事業所と比較しても高く、また、入居者様全体の約3割が開設当初から入居して頂いており、いつまでもその方らしい生活が送れるよう、心掛け支援を行っています。新型コロナウイルスが流行する以前は、地域の催し物や会議への参加、幼稚園、小中学校との交流学習の受け入れ等、様々な活動を通じ、地域に根差した事業所として取り組んで参りました。平成28年度からは市内で最初のGHの共有スペースを活用した共用型DSを開設し、認知症状が重度化した方でも、馴染みの地域や人々との関係性を継続しながら、その方らしい暮らしが送れるようサービスを展開しています。現在は、新型コロナウイルスで自粛していますが、毎月第2土曜日には、併設しているDSを利用して、同じ圏域の介護事業所や地域包括の職員と共に、地域のボランティアさんの協力を頂きながら、「おれんじカフェ」を開催しており、認知症について興味をお持ちの方、認知症を予防したい方、また、実際に認知症の方やその方を介護されている方を対象に、地域から孤立せず、様々な方との繋がりが持てるよう、イベントや企画を通じて楽しんで集える場としても活用しており、地域の高齢化に伴い、当事業所としての役割を職員一同で模索しながら、地域における認知症ケアの拠点となり得る事業所を目指し努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識したケアについての勉強会をMT内で開くほか、各ユニットの掲示板や職員のネームプレートの裏側に理念が記されたものを携帯しておく等、日頃から目の届く場所に示し、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園や小中学校との交流学习、町内会のお祭り等への参加を通じて、地域の方々と交流が図れており、また、認知症カフェに出席する等して参加者やボランティアの方々とも関わりを持っていたが、今年度は、コロナウィルスの影響もあり自粛となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型DSや認知症カフェ、小中学校の交流学习などを通じて、事業所の特色を活かしながら、認知症への理解が地域全体で深めて頂けるよう発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様をはじめ、地域住民の方々や市の職員、包括や福祉委員の方々等のご協力の基、当事業所の取り組みや状況報告を通じ、毎回、活発な話し合いが持たれ、サービス向上に繋げている。今年度は、新型コロナウィルスにより、書面で報告を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へのご出席や、日頃から個別での事案について、電話やメールを通して相談させて頂き、運営にあたってのアドバイス等を戴ける関係性が出来ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する具体例についての貼紙を職員の休憩室に掲示し、日頃から目に留め意識づけている他、研修の参加や事業所内でのMTで身体拘束に関する意見交換を行い、日頃のケアに反映させている。。玄関の施錠については、交通量の多い道路に面しているため、他事業所と共有し行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内・外部の研修の参加や、毎年、身体拘束と虐待に関する勉強会を事業所内で行い、日頃のケアの中で不適切なケアを行っていないか、職員間で検討する場を設け、身体拘束や虐待が見過ごされることが無いよう努めている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用して、支援に繋げている利用者様もあり、また、法人内・外部研修で権利擁護と制度に関して学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容に変更があった際には、都度、運営規定や重要事項説明書等を用い、分かり易く説明を行い、不安や疑問点等があった際には、しっかりとお答えし、安心して利用して頂けるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入り口にご意見箱を設置するほか、年に1度のアンケート調査を行い、事業所に対する率直なご意見等を頂く機会を設け、アンケート結果を後日、職員間で共有する機会を持ち、今後のサービスに反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他、年に2回の個人面談を行い、職員個々の職務や運営に関する意見を聞く場を設けている。また、現場にも積極的に入り、日頃から職員と気兼ねなく意見交換が行える環境が出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事とプライベートの切り替えができるよう、それぞれの生活スタイルに合った勤務体制や給与水準に関する相談を日頃から行い、調整を図っている。また、各職員の得意分野に目を向け、それぞれが活躍できる場を設け、仕事に対するやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、今年度の研修はあまり参加出来なかったが、例年は法人内、外部研修の参加を職員に対して積極的に働きかけ、シフト調整や法人での費用負担等、受講し易い環境が整っている。また、日頃から各職員の力量を見極め、様々な経験を通して成長できる機会を持ち、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は、市内のGH部会の定例会議や合同研修会を行い、事業所間、スタッフ間の交流が図っていたが、新型コロナウイルスの影響により、現在はメールや電話で情報交換を行い、サービスの向上に反映している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、健康状態やADLの確認と現在の困り事などを傾聴した上で、事前にスタッフ間で情報共有し、安心して入居頂ける環境を整えている。又、入居直後もコミュニケーションの機会を多く持ち、関係性が築けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族様の不安事や心配事を十分にお聞きすると同時に、センター方式の様式の様式をお渡しし、ご本人様の嗜好、今までの人生について振り返って頂く機会を持ち、スタッフと共有することで共に支える第一歩としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階で、ご家族様やご本人様の不安事や困り事に耳を傾け、最善な選択に繋がるよう、他のサービスを提案を含めアドバイスさせて頂く事もあり、選択の幅を広げた上で、ご本人様やご家族様に自己決定して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から、ご本人様のできる事を一つでも多く見つけ出し、工夫や働きかけを行っている。また、利用者様からは生活の知恵等を教えて頂く事で、生活を送る上で、互いに支え協力し合える関係性が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	例年は、行事や誕生会等にご家族様をご案内し、ご本人との絆を大切にしながら、共に支える関係作りに努めていた。現在はコロナ禍の為、面会の制限もあり、電話やメール、広報誌等を活用しながら状況報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の前は、ご家族様やご友人など馴染みのある方々にご協力を頂きながら、面会のほか、お墓参りや食事会等に出かける事もあり、また、入居前から利用していた訪問美容の受け入れも実施し、入居後も以前の関係性が継続できるよう努めていた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性を踏まえ、共に楽しんで会話や活動に参加出来るよう、職員も常に見守りを行い、必要に応じて介入しながら、良い関係性が保てるよう支援を行っている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、相談事等があれば受け入れられる事をお伝えし、必要に応じて支援を行っている。先日も、以前入居されていた利用者様のご家族様からご連絡があり、関係性が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、ご本人様の言動から希望や思いを汲み取りれるよう努め、困難な場合には、表情、仕草、性格や今迄の生活背景の他、ご家族様からも情報を頂きながら、利用者様の本位のケアに繋がるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際の面談、その他、ご家族様からのアセスメントシートや入居前に利用していたサービスの関係者等から頂いた情報を職員間で共有し、ご本人様が安心できる生活が確保できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアでの気づきをケアプランの評価欄に記入できるようになっている他、状況の変化等があった場合には、カンファレンスで意見交換を行い情報の共有、把握に努めている。センター方式も有効に活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現行のプランで、支援を行った上での経過や気づき等を都度、記録やケアプランの評価欄に全職員で記載し、それを基にカンファレンスを開き意見交換で出た情報を集約した上で、現状に即したプランの作成に宛てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った記録を実施し、経過や実践結果、様子の変化等を記録や評価欄に記載。また、ご本人様の訴え等はご本人様の言葉で記入するようにし、プランの見直しを行う際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、買い物や必要書類の記載を代行、またニーズに応じて、併設事業所のNSIによる処置や機能訓練指導員からの生活リハの提案等を頂き、幅広くサービスが提供出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で今年度は行っていないが、例年は地域で行われる催し物や幼稚園や小学校での行事、小中学生の体験学習の受け入れ等、地域社会と触れ合い、楽しむみの幅を広げながらQOLの向上を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、主治医の基での定期受診の実施や、ご本人様やご家族様のご意向に沿い、職員対応での他科受診の介助も適宜行っている。身体状況に変化が見られた場合には、24時間体制で指示が受けられる体制となっている。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(うら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子観察に努め、変化や気になる点が見られた際には、都度、看護師に相談、指示を仰ぎ、適切な受診や処置対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護添書や介護添書での情報共有を行ない、職員が入院先に頻回に面会に行き、病院関係者と直接、情報交換を行っていた。現在はコロナ禍の為、電話でのやり取りで情報交換を行い、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で、はじめに重度化に対する指針についての説明を行い、入居後は、ご本人様の体調変化や認知症の進行が確認された場合に、都度、ご家族様に現状報告と今後についての相談を個別に行い、ご本人様とご家族様のご意向を確認した上で対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	MTを活用し、対応の仕方についても確認を行い発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年は年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、訓練時には、地域住民の方やご家族様にもご参加頂きながら、協力体制を組んでいた。今年度は、未だコロナ禍で訓練は実施できておらず、今後、部分訓練と言う形で実施を予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者間のトラブル時には、両者の自尊心を傷つけないよう、個々に寄り添った声掛けを行い、それぞれの意見を尊重しながら対応に努めている。。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃関わる中で、ご本人様の思いや希望を汲み取り、日々の活動においても、ご本人の意思を尊重し、参加、不参加を自由に選択できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の際は、基本的に利用者様全員一緒に食卓を囲むようにしているが、混乱や気持ちが落ち着かない時、また、体調によって、自室での食事を望む場合には、希望に沿い個別で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様からの希望があった際には、化粧品の購入や行事で着物を着る機会を設けて、おしゃれを楽しめるよう取り組んでいる。、訪問美容での散髪も定期的実施している。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では、誕生日を迎える方の希望、嗜好に沿ったメニューを提案。また、コロナ禍で外食が出来ない分、出前を活用し、食事をより楽しめるよう支援している。食後の片付け等も積極的に利用者様と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の咀嚼力、嚥下機能に応じた食事形態で提供し、必要な栄養や水分量の確保に努めている。形態の他、器や盛り付け方等にもスタッフ間で情報を共有し工夫を重ねながら、支援に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合った、ケア方法や義歯洗浄の管理を行う他、訪問歯科による定期検査や治療にて、口腔環境の維持に努めていたが、コロナ禍の為、昨年11月以降から休診し、必要時のみ診て頂いている状況。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の支援から、個々の排泄パターンを察知し、職員間で情報を共有しながら統一した支援に活かしている。トイレへのご案内時には、プライバシーに十分配慮し、自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、排泄パターンを職員間で共有する事で、適宜対応を行い便秘改善に努めている。その他日々の水分量管理や乳酸菌飲料、整腸剤の導入、時間毎のトイレ案内等様々なアプローチを実践。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様全員が週2回以上入浴が行えるよう取り組み、体力的に入浴が困難な方には、ベッド上での全身清拭で対応している。入浴に抵抗がある方には、声掛けの工夫や時間帯に配慮し支援に繋げている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調に応じて、リビングで過ごす時間を設けると同時に、休息時間も適切に設ける等して、メリハリのある生活支援が持てるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の変更や追加があった際は、職員間で内容を周知し、副作用等を含むご本人様の様子観察を強化し、適宜対応を図っている。個々の薬情ファイルを作成し、服薬状況が確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や希望に合わせ、家事活動の他、行事での挨拶や、唄の先生等、様々な面で役割を持って張り合いのある生活が送れるよう支援している。		

グループホーム共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(うらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年5～9月までの間、外出行事を設けており、また、ご家族様や知人の方々の協力を得ながら、自宅への外出や外食も行っていたが、コロナウィルスの影響により、今年度は自粛している。近くのスーパーへの買い物は、十分な感染予防を行った上で実施を継続している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様全員が個人でお金を所持しておらず、おやつや日用品等購入の希望があった際には、施設で管理している個人のお小遣いから購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話が出来るよう支援を行っている。誕生日や母の日等にプレゼントや手紙が送られてくるが、返信についてはアプローチしても応じてくれることはなく、受け取るのみとなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の掲示物には、行事で作成した作品や季節に合った飾り付けを施している。コロナ禍の為、例年より換気や消毒は十分配慮し、居心地が良く、尚且つ安全な環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの自席以外にも、ソファを配置し、好きな場所で思い思いに過ごしながら、職員や気の合う方と談笑できる環境作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れた家具や愛用していた小物、思い出のある写真等を、ご本人及びご家族様と相談しながら配置して頂き、今までの生活環境に近い空間で過ごせるよう取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の動線に障害物がないか、安全面に配慮した家具の配置を行い、個々のニーズに応じてベッドに手すりをつける等起き上がりや立ち上がりの自立を促せる家具を使用。自室前には表札が掛けられている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム共栄の郷

作成日：令和 3年 3月 14日

市町村受理日：令和 3年 3月 17日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	現状、火災を想定した避難訓練しか実施しておらず、また、地震を想定した施設内の対策や災害時の備蓄品において、改善の余地がある。	火災のみならず、様々な災害を想定した訓練を実施し、また、災害時の備蓄品の充実と施設内の安全対策の強化を図る。	・様々な災害を想定した訓練を行う。 ・現在の防災備蓄品の在庫確認と必要物品の購入。 ・施設内における地震発生時の家具の転倒や落下リスクをアセスメントした上で、ご家族様と御相談を行い、家具の固定や向き、配置の工夫を行う。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。